

令和 4 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属久里浜特別支援学校	校長名	伊藤 僚幸
幼児・児童・生徒数（R5.3.1現在）	50	学級数	18
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>子供一人一人の思いや個性を大切にし、障害特性等に応じた指導を通して、主体的に考え、判断し、表現する力と態度を育成する。</p> <p>目指す子供像：人との関わりを楽しむ子、自分なりに考え行動する子、自分の考えや思いを表現する子</p>		
② 学校経営方針	<p>附属学校として果たすべき使命を遂行するため、教職員の協働体制を再構築し、保護者や関係者と連携を図りながら、子供一人一人を確かに育てる教育を追究する。</p> <p>(1) 筑波大学の教育・研究及び事業への貢献</p> <p>(2) 先導的な教育・研究の展開と成果の発信 ※自立活動の指導の充実、各教科等の指導の明確化</p> <p>(3) 安心・安全で信頼される学校づくり</p> <p>(4) 役割の自覚と決まりの遵守 ※教職員間の関係を良好に保つ</p> <p>(5) 教職員の専門性の向上</p>		
③ 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等を合わせた指導を検証する作業を通して、各単元を構成する要素を明確にする（特に生活科を中心に進める）。 幼稚部の学級編制を見直し、適的な定員に改編するとともに、地域支援の新たな事業に取り組む。 教職員の補充を計画的に進めるとともに、人事交流の新規開拓を図る。 公立特別支援学校との交流を通じて、中学部への移行を円滑に実施する。 学校暦に対応させた変形労働時間制に基づく勤務形態と、必要最小限の時間外勤務との組合せにより、教育活動を効果的に実施できるようにする。 ハラスメント研修等を実施するとともに、職場内のルール等、逐次確認しながら教職員間の関係性を良好に保つようにする。 		
④ 前年度（令和 3 年度）の成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚部と小学部を設置する特別支援学校における自立活動の指導の重要性を再確認した上で実践研究に取り組んだ。研究成果は、本校が主催する『自閉症教育実践研究協議会』において発表するとともに、研究集録を刊行し関係諸機関等に配布し、研究の成果を広く発信することができた。 従来のアセスメント研修に加え、カード整理法を交えたミーティング研修を取り入れ、個別の指導計画の作成過程における情報整理や合意形成の新たな手法を共有することができた。 勤務時間の長短を意図的に仕組んだ変形労働時間制に基づく勤務管理を実施し、時間外勤務の発生を抑制することができた。 コロナ禍において、感染拡大防止策を実施しながら教育活動を行い、行事等の中止を回避することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の欠員補充が年度末まで完了せず、指導体制の安定を図ることができなかった。正規採用者の拡充及び人事交流の新規開拓を進め、良好な職場の維持にも努める必要がある。 授業時数の把握や教育課程の明確化など、教務上の課題に取り組む必要がある。 定員未充足の解消に向けて、学級編制や入学選考の見直しが必要である。地域支援にも取り組む必要がある。 中学部への移行を踏まえた取組を改めて検討し、教育課程の見直しを進める必要がある。 		

3 重点目標達成についての総括的評価

各教科等を合わせた指導の検証は、外部講師の助言等を仰ぎながら授業研究会を通じ実施してきた。その成果は、実践事例として本校が主催する『自閉症教育実践研究協議会』において発表した。また、教育課程における教科時数の積算においては再設定を行っている。幼稚部の学級編成については、令和5年度の募集定員を満たすことができた。募集人員を増やすためにも、横須賀市療育相談センターや地域の児童発達支援事業所などと相互に見学を行うなど、継続した連携を行っていきたいと考えている。令和4年度の教職員の補充に関しては、例年に比べ時期を早めて募集を行い、予定していた人員を補充することができた。また、令和5年度からの交流人事については、教育委員会等との連携を強化することで、交流の継続・拡大することができた。地域の特別支援学校との連携については、コロナ禍の影響で回数こそ多くはできなかったが、交流授業の実施、見学会への参加などを行うことができた。移行の円滑化にもつながったものと評価している。変形労働時間については、令和4年度の時間調整に関する反省を踏まえ、令和5年度の労働時間を更に改善している。ハラスメント防止の研修については、年間を通して実施した。全体参加型の研修だけでなく、オンデマンド動画を利用するなど研修機会の充実を図った。コロナ感染拡大の対応を徹底したことから、学校行事等の教育活動のほとんどを実施することができた。

4 令和5年度の学校課題

- ・教科指導と自立活動の内容の充実とカリキュラムの検討。
- ・正規採用者の拡充及び人事交流の継続的な実施。
- ・定員未充足の解消に向けた、学級編制や入学選考の検討。
- ・ホームページや学校紹介動画の作成を通じた啓蒙活動の強化。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

カリキュラムマネジメントについては、筑波大学との連携による教育課程改善の研修を行うとともに、授業検討会を中心に整理・検討を継続していくことで、教育課程の改善につなげていく。数年をかけて、知的自閉症児に特化した教育課程の改善提案をまとめていく。人事の充実に関しては今年度と同様、時期を意識した募集を行うとともに、各都道府県教育委員会との連絡・調整を密に行う。定員に関しては、授業実践だけではなく、コロナ禍で行えなかった地域関係施設との行事の再開や学校公開、交流及び交流学习の活性化なども進め、学校の存在や魅力を高めていくとともに、その様子をホームページなどで発信していく。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

令和4年度自閉症教育実践研究協議会 実践研究集録

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 4 年度

学校名

筑波大学附属久里浜特別支援学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	教育課程編成の課題については、職員会議を含め、多くの機会で見直しを検討を重ねた。授業研究や授業づくり検討会等を通じ、幼稚園における6領域と小学部における自立活動と各教科等との関連性を共有し、その改善方法等については『自閉症教育実践研究協議会』の場で発表した。また、幼稚園・小学部それぞれの教育課程の系統性・整合性については、学部の相違を確認し、検討を継続することとした。
1-2-8	学習指導要領等の基準のとり、児童生徒の発達段階に即した指導の状況	指導力向上を目的とし、全校研修会を計画した。夏季休業中は、外部専門家を招へいした全校研修会を実施し、『PEP-3』や『新版K式発達検査』等の発達診断検査は、年間を通じ計画的に実施した。また、子どもの実態把握や保護者のニーズに応えるため、親子教室や家庭訪問などを行った。保護者からの情報を丁寧に収集したことから、子ども一人一人に応じた個別の指導計画を作成し、指導の充実に結びつけることができた。
5-1-5	安全点検（通学路の安全点検を含む）や、教職員・児童生徒の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	毎月、校内の安全点検を実施した。危険性等が確認された遊具・器具等は、即時に使用を停止し教職員間で周知するなど、事故防止を徹底した。また、子ども一人一人の健康・安全に関する事案や対応については、朝会において全教職員で共有した。結果、全教職員の安全意識向上が一層深まった。通学路等の保全については、自治体や近隣施設と連絡をとり補修依頼を行った。予算の関係で時間のかかる修理・修繕もあったが、概ね迅速に対処できた。
7-1-2	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況	校長・副校長・学部主事等で組織する企画調整会議において、各分掌部の活動状況や企画の進捗状況を確認し必要な調整を図った。年度末に全教員にアンケートを実施し校務分掌や運営体制の見直しを行った。反省事項を踏まえ、令和5年度の分掌及び委員会業務の変更案を検討した。
7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス監督の状況	年度当初、教職員間で労務についての研修会を行い、労働に関する法令について共通理解を図った。事務部と管理職でタイムカードを定期的にチェックし、勤怠管理の徹底を行った。時間外勤務の必要性を適宜判断し、必要なものについては承認した。繁忙期の見直しを行い、令和5年度の変形労働時間の調整に反映させた。
7-1-99	教職員のメンタルヘルスを維持するための取組の状況	5月から6月にかけて2月に面談を行った。主事会等において教職員のメンタルヘルスケアについての情報を共有し、フォロー等に当たるようにした。また、メンタルヘルス研修については、附属学校教育局が作成したオンデマンド動画等を活用した。

8-1-3	校内研修の課題の設定の状況	4月初め、子供の見方・捉え方等基礎的内容についての研修会を実施した。夏季休業中、アセスメントを中心とした研修を実施するとともに、各教員の専門性を共有するための動画作成研修を実施した。また、自己研鑽を目的とした研修会、筑波大学が主催する公開講座、他大学の附属学校が主催する研究会については、積極的に情報提供を行った。各教員は、それぞれの実態に合った研修を行うことができた。
10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	従来の掲載内容の更新・充実に努めるとともに、子供の様子や学校行事がより具体的に視聴できるよう定期的な情報発信に努めた。結果、年間アクセス数が4万件を超えた。保護者からは好意的な意見が多数寄せられた。
14-1-3	知的障害を伴う自閉症教育・研究の取組の状況	自立活動の指導課題を導き出すプロセスに基づく授業づくりや、各教科等に焦点を当てた授業検討を通じて、指導目標・指導内容の設定や指導上の工夫、学習評価等の見直しを行った。筑波大学野呂教授指導のもと、授業評価と改善に至る経緯をまとめ、『自閉症教育実践研究協議会』等で発表した。知的教科の目標及び内容を踏まえた指導目標及び指導内容の設定については、独立行政法人特別支援教育総合研究所研究員指導のもと、整理した内容を全国に発信することができた。
14-1-5	国際交流・国際貢献の取組の状況	中国江蘇省蘇州工業園区仁愛学校との間で、姉妹校協定を再締結した。仁愛学校教員が、本校主催の『自閉症教育実践研究協議会』や公開講座に参加した。また、本校教員の実践は、仁愛学校主催『珠三角八城新特教教研パートナー連盟オンライン教研活動』において発表した。次年度、中国寧波市達敏学校との間で再締結を進める予定である。